静岡新聞 2024 年 12 月 25 日 付

論壇

来年の経済 春闘に注目

東京大名誉教授（国際経済学）
伊藤 元重

令和6年も終わろうとしている。今年はどんな年だっただろうか、そして来年はどんな年になるのだろうか。毎年、年末年始にはそんなことを考える。

経済の視点から見ると、今年はいろいろと悪い条件が重なった。ウクライナやパレスチナでは戦争が続いている。米中の対立はより深刻になっているように見える。そうした影響もあって、中国経済の低迷が続く。過去20年以上にわたって世界経済の成長を牽引してきた中国経済が低迷すれば、世界経済にもマイナス効果が及ぶはずである。

こうした諸々の悪条件にもかかわらず、日本経済の状況は「良い」とまではいかないが、「悪くない」と言ってよいだろう。株価や不動産価格は好調だし、企業の業績も悪くない。政府の税収も増えているし、雇用環境も絶好調だ。人手不足という問題があることもあり、賃金は大幅に増えている。

日本経済はデフレから脱却したようだ。日本銀行が目標とする2％インフレをすでに32カ月達成している。物価上昇と賃金上昇の好循環が起きている。グローバルな経済環境が厳しい中で、この好循環に乗って日本経済は健闘している。

今後の日本経済の行方の鍵を握っているのは、賃金の動きだ。昨年と今年の春闘では、過去最高の賃上げが実現した。これを受けて中小企業などの賃金も上昇基調となり、賃金が物価を引き上げ、物価が賃金を引き上げる、という好循環が生まれつつある。デフレの時代にはコストカットに走り、縮み志向の経営を行っていた企業も、価格引き上げを通じた拡大志向となっている。賃金上昇の流れは労働者に明るい将来を期待させるものである。

来年の経済の注目点は、来年も脱デフレの流れが続くのかどうかということだ。そしてその鍵を握っているのは、来年も賃金上昇が継続するかどうかということだ。そこで注目されるのが、3月の春闘の成果だ。昨年、今年と、2年連続で春闘では高い賃上げが実現した。すでに述べたように、この春闘の動きが賃金と物価の好循環につながっている。

仮に来年の3月の春闘で高い賃上げが実現しないようなら、物価上昇と賃金上昇の好循環は失速することになる。少し前まで、「2回も続けて近年にないほどの高い賃上げを春闘で実現したので、3回目の来年の春闘はあまり期待できない」というような発言をする経営者も少なくなかった。

ただ、ここにきて、こうした消極的な見方をする人は減っている。人手不足は深刻であり、賃金を上げないと企業は生き残れないという見方が広がっている。来年の3月の交渉を目指して労働組合が提示している賃上げ幅も、前回のそれを超えている。組合の要求が全て通るわけではないが、春闘での賃上げ圧力が強まっていることは事実だ。

以上に加えて、1月から米国でトランプ政権が始動する。トランプ大統領がやろうとしている大規模な減税政策は、米国経済にインフレ圧力をかけるものである。この動きは日本にも大きな影響を及ぼすだろう。いずれにしても、来年の注目点として、まずは3月の春闘と、1月からのトランプ政権の政策運営を挙げたい。

＊この記事は静岡新聞社編集局調査部の許諾を得て転載しています。 無断転載、複製を禁じます。